# 第5回 がんゲノム医療に関する調査

## Topics

- ✓ 遺伝子パネル検査の保険適応取得後2年時点において、**CGP目的の遺伝子パネル検査を実施したことがあると回答した医師は調査回答医のうち28%**。医師割合、患者割合ともにがんゲノム医療病院における実施割合が高く、中核拠点病院・拠点病院では回答医のうち半数以上が実施したことがあると回答した。
- ✓ エキスパートパネルの参加経験がある医師に負担感を問うと、**「エキスパートパネルが負担である」と回答した割合は回答医の89%であり、多くの医師が何らかの負担を感じていた。**具体的な内容としては「担当症例の場合に準備が必要」や「レポートの情報が不十分な特に検討に時間がかかる」などが上位に挙げられていた。
- ✓ 直近3ヶ月間に**肺がん初回治療前のコンパニオン検査として遺伝子パネル検査が実施された患者割合は40%**であり、順調にパネル検査の割合が伸びており、その半数以上をオンコマインが占める。パネル検査を実施しない患者がいる理由として多く挙げられたのは**「検体量・質の確保」「単一遺伝子検査で問題ない」**であったため、検体がなく実施したくてもできないケースと、パネル検査に対してメリットを感じないケースがあり、非実施医でも考えが分かれていた。

※CGP：包括的ゲノムプロファイリング

## 調査背景・目的

- ✓ 2019年6月に遺伝子パネル検査が保険適応を取得し、本邦におけるがんゲノム医療がスタートして約2年が経過した。
- ✓ 現在の遺伝子パネル検査の浸透状況や医師が抱える課題、さらに今後どのようにゲノム医療が浸透していくのかを継時的に把握していくために調査を行った。

## 調査概要

調査方法　：インターネット調査（全国）
使用パネル　：プラメド保有医師パネル（弊社子会社）
調査期間　：2021年6月10日～23日
対象　：100床以上の施設に勤務しており、直近1年間に固形がん患者5名*以上に対して抗がん剤治療を実施した医師　*小児科医の場合は1名以上

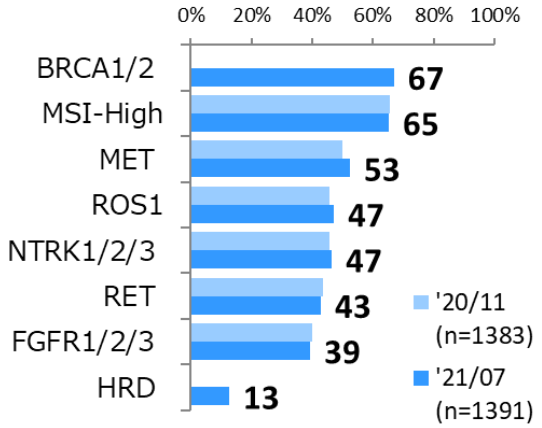
有効回答数：

| TOTAL | がんゲノム医療中核拠点病院・拠点病院 | がんゲノム医療連携病院 | 左記以外のがん拠点病院 | がん拠点病院以外 |
|---|---|---|---|---|
| 1391s | 254s | 340s | 246s | 551s |

# 調査結果 ※一部抜粋

## 遺伝子変異／融合遺伝子 認知度

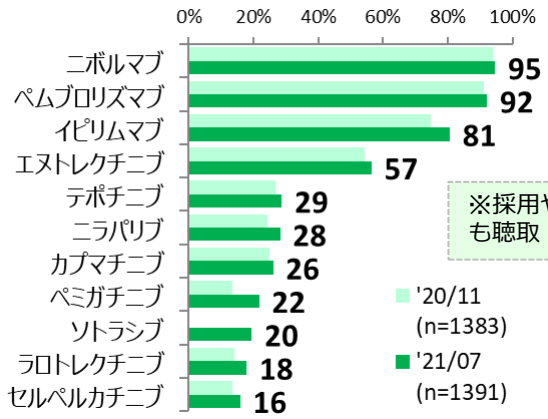
Q. 以下の遺伝子変異／融合遺伝子などのうち、先生が見聞きしたことがあるものをすべてお知らせください。




*BRCA1/2, HRDは'20/11は聴取なし

## 新規薬剤 認知度

Q. 以下の薬剤のうち、先生が見聞きしたことがある薬剤をすべてお知らせください。




※採用や使用経験も聴取！

*ソトラシブは'20/11は聴取なし

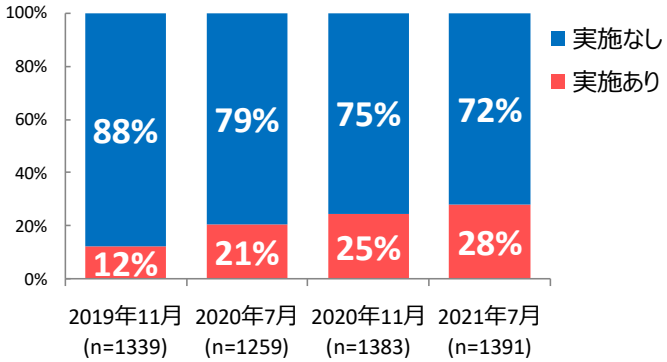
※遺伝子パネル検査において薬剤に結び付く変異・薬剤を聴取（開発中も含む）

## ＜CGP目的＞遺伝子パネル検査実施有無

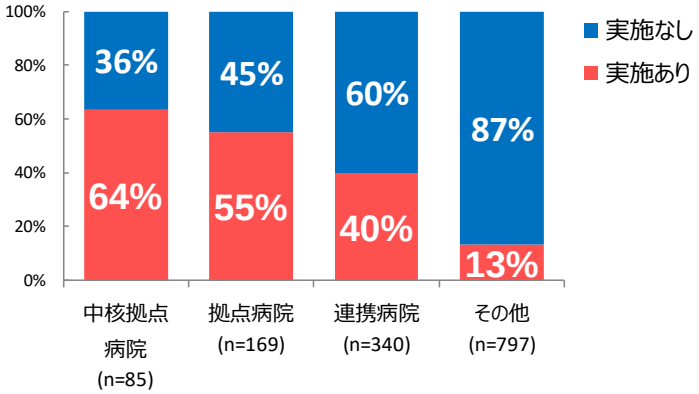
Q. 先生は直近1年間にNGS等による遺伝子パネル検査を実施したことはありますか。

※**保険診療**にて実施

### ＜回答医全体 時系列＞



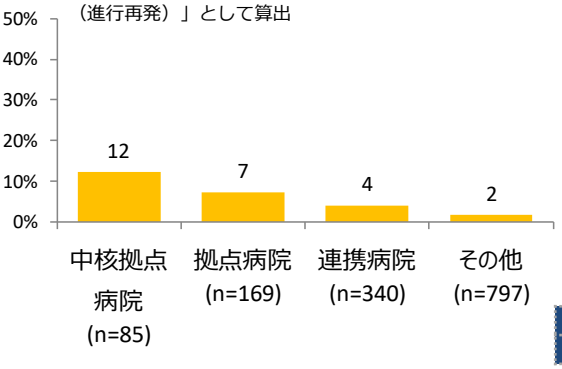

### ＜がんゲノム医療施設別＞




## ＜CGP目的＞遺伝子パネル検査実施患者割合

### ＜がんゲノム医療施設別＞

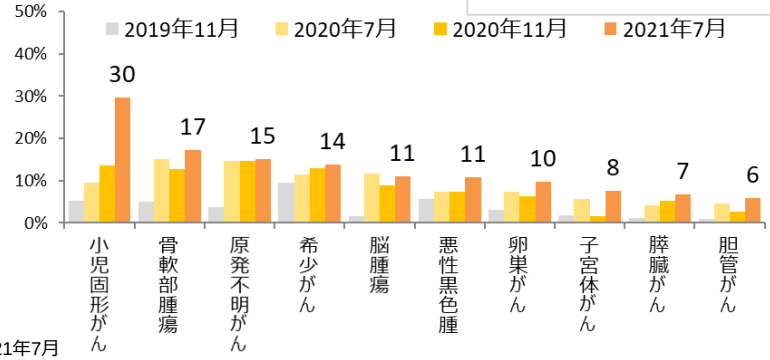
※「パネル検査実施患者」÷「抗がん剤治療実施患者（進行再発）」として算出




## ＜CGP目的＞がん種別 遺伝子パネル検査実施患者合

※TOP10のがん種を抜粋

Q. 先生が直近1年間に、保険診療にてCGPを主な目的として遺伝子パネル検査を実施した患者さんについて、がん種別にお知らせください。




2021年7月

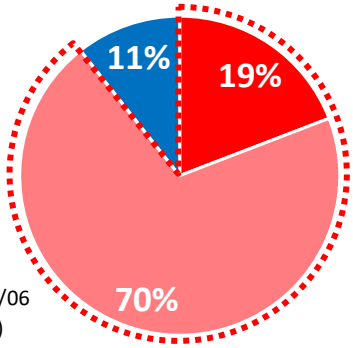
| | 小児固形がん | 骨軟部腫瘍 | 原発不明がん | 希少がん | 脳腫瘍 | 悪性黒色腫 | 卵巣がん | 子宮体がん | 膵臓がん | 胆管がん |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Pt.n | 382 | 261 | 303 | 151 | 1023 | 177 | 614 | 487 | 1948 | 957 |
| Dr.n | 67 | 56 | 102 | 43 | 134 | 46 | 87 | 77 | 349 | 240 |

※「各がん種のCGP検査実施患者数」÷「各がん種の抗がん剤治療実施患者数」として算出

## エキスパートパネルの負担感

Q. エキスパートパネルの開催は、先生にとって負担と感じることはありますか。以下のうち、先生のお考えとして最もあてはまるものをお知らせください。

＜回答：エキスパートパネル参加医＞

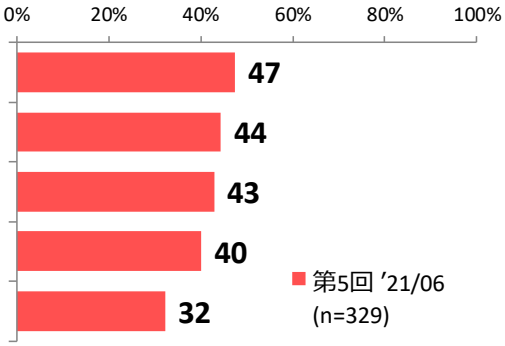



第5回 '21/06
(n=329)

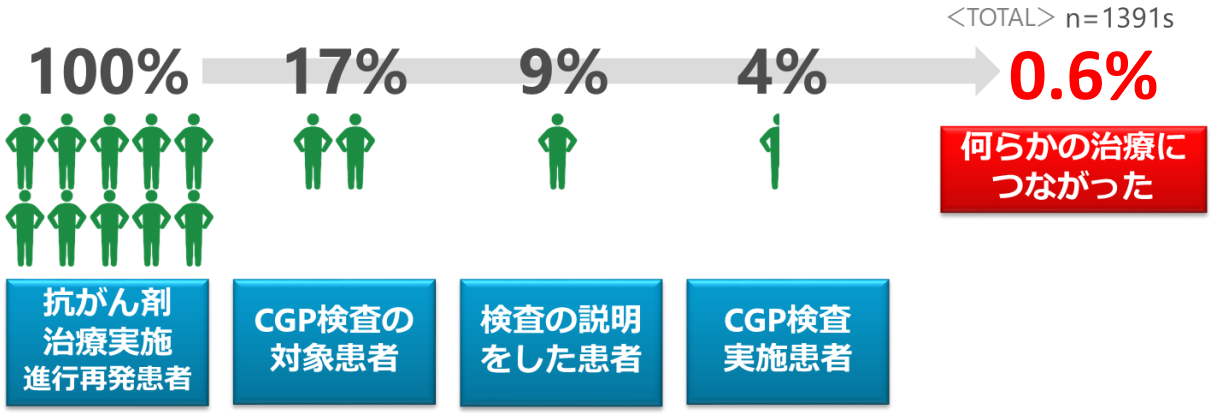
- 通常業務に影響を与えるほど負担に感じている
- 負担を感じたことはあるが、通常業務に影響するほどではない
- 負担に感じたことはない

**89%が"負担である"と回答**

### 具体的にどのような点に負担を感じているのか【TOP5抜粋】



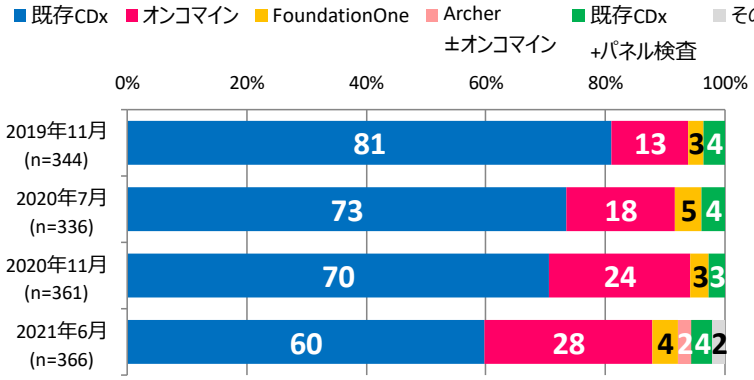

### 進行再発・抗がん剤治療実施患者を100とした際のCGP検査の各ステップごとの患者割合




## 【肺がん】既存CDxとの使い分け

Q. 最近3ヶ月間に新規に治療を開始した切除不能・進行再発 非小細胞肺がん患者さんに対する初回治療前の遺伝子検査について、その内訳をお知らせください。

＜回答：肺がん治療医＞




遺伝子パネル検査を実施しない患者がいる理由は、

**1位：検査に必要な検体量を確保することが難しい**

**2位：従来のCDx検査の組み合わせで問題ない**

**3位：検査に必要な検体の質の担保が難しい**

が回答として上位に挙げられた。

これまでの結果に比べて、「検体量・質」を懸念してパネル検査を実施していない医師が多かった。

# 考察

- ✓ 聴取した全領域における抗がん剤治療実施患者を100とすると、CGP検査の対象となる患者は17%、さらにCGP検査の説明をした患者は9%、実際に検査を実施した割合は4%であり、必ずしも対象患者すべてが説明／検査を受けているわけではないことがわかった。
- ✓ その理由は「結果が治療につながりにくい（本データではCGP検査実施のうち15%）」「結果が出るまで数か月を要する」などいくつか考えられるが、エキスパートパネルに対しても負担感を感じる医師が多いことが明らかとなった（エキスパートパネル参加医の89%が"負担"と回答）。CGP検査が保険適応となって2年経過したが、「エキスパートパネルの準備に時間がかかる」「レポートの情報が不十分と感じることがある」などが主な負担感の理由であり、まだまだ課題は多い。
- ✓ Liquid biopsyの登場により、さらなるCGP検査の浸透が期待されるが、エキスパートパネル開催に伴う「スケジュール調整」や「変異が見つからなかった場合の検討の省略／簡略化」など、CGP検査実施医の負担ができるだけ軽減されるような仕組みが整うことを期待し、今後の動向に着目したい。

# 調査項目 ※一部抜粋

| | |
|---|---|
| 浸透度 | ■ ゲノム医療・パネル検査 認知度(全体)　■ パネル別 採用・使用経験有無<br>■ 遺伝子変異／新規薬剤 認知・採用・使用有無 |
| 実態把握 | ■ がん種別 遺伝子パネル検査実施患者数（保険診療）<br>✓ CDx／CGP目的別、パネル検査別、実施タイミング別<br>■ CDx目的のパネル検査使用状況<br>✓ 検査の成功率<br>✓ 既存CDxとの使い分け（肺がん、乳がん、卵巣がん、大腸がん、悪性黒色腫、MSI検査） |
| マインド把握 | ■ がんゲノム医療に対する懸念点　■ CGP検査の課題<br>■ リキッドバイオプシーによるCGP検査への期待・懸念 |
| 情報入手 | ■ がんゲノム医療に関する情報入手経路　■ がんゲノム医療に関して欲しい情報 |

★**約1600名を対象とした第2回患者調査**も実施（2021年8月）

★**第6回医師調査データも好評販売中**（2021年11月実査）

**データ詳細についてはお気軽にお問合せください。**

**「遺伝子検査をよくやってる先生は何科？」「施設間の違いはある？」「ターゲット医師の評価は？」 etc…**

※ターゲット医師のマッチングや、詳細分析、アウトプット作成等は別途ご相談ください。

**オンコロジー領域の調査は、インテージヘルスケアへ！**

本調査に関するお問い合わせ

www.intage-healthcare.co.jp

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台4-6 御茶ノ水ソラシティ13階　電話：03-5294-8393（会社代表）

オンコロジー領域のことなら

メディカル・ソリューション部 オンコロジー領域専門グループ

メール：ant-onc@intage.com

担当：安達（あだち）・森田（もりた）